

イノベーション(改革)とリノベーション(再建)とは
ーシリコンバレーで考えるー

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：シリコンバレーには何のために行かれたのですか。

A：(林明夫。以下略)「シリコンバレーに学ぶ・成功する起業家スピリッツ」と題する「アントレプレナー研修 IN シリコンバレー(ジェトロ・日本貿易振興機構主催、2月28日～3月1日)」に参加するためです。シリコンバレーに進出を希望する人を含め20名が参加し、使用言語は日本語と英語で、英語による講演の質疑応答にのみ通訳が入りました。

Q：なぜ、この研修に参加されたのですか。

A：「『起業家精神』とは何か」を、イノベーション(改革)が熱心に行われているシリコンバレーで学びたかったからです。

私は、民間部門・公共部門のどちらにも今一番必要なのは、「イノベーション(改革)」と「リノベーション(再建)」を内容とする「起業家精神」ではないかと考えます。

自らの強みにより一層の磨きをかけ、独自性を際立たせ、他との差別化を図る「イノベーション(改革)」。自らの弱み、さらにはっきり言えば不採算部門を今後も継続するか否かを考え、止めるべきものは勇気を持って止め、また、仮に継続するにしても赤字の垂れ流しが明確であるならば担当者を総入れ替えした上で今までとは全く違ったやり方で展開する「リノベーション(再建)」。

これら二者が、起業家精神のもとで最も熱心に行われているのがシリコンバレーではないかと考え、素直な気持ちで学ばせて頂きたいと思ったのです。

Q：ところで、シリコンバレーはどこにあるのですか。

A：米国カリフォルニア州のサンフランシスコからサンノゼにかけての地域のことを、シリコンバレーと呼ぶようです。ここは、世界有数の一大ハイテク産業クラスターであり、ベンチャービジネスのメッカであると言われています。そして、スタンフォード大学がその「学問的中心」となっているようです。

Q：シリコンバレーで「イノベーション」が促進されるのは、なぜですか。

A：競争が激烈だからです。ハイテク分野での最も優秀な人々が世界中から集まり、激烈に競争。自らの知的財産を商品化して世に問うために、資金を出してくれるベンチャーキャピタルの力を借りる。そのために、研究開発により一層磨きをかけて「プレゼンテーション(事業計画)」としてまとめ上げる。スタンフォード大学をはじめ地域全体が「クラスター(産業集積)」となり起業家の「イノベーション」を促進しつづけている、これがシリコンバレーのようです。

Q：学習塾や予備校、私立学校の経営者の皆様が、シリコンバレーから学ぶことは何ですか。

A：本誌に長年掲載をなさっている高井伸夫弁護士が「昨日のように今日があり、今日のように明日があればよい」と思っていると、明後日はない。」とおっしゃっているように、「企業は原則倒産」であります。つまり、「競争力」のない学習塾や予備校、私立学校は、倒産を免れることはできません。

では、「競争力」をどうつけるか。「創業の理念」に立ち返り、「社会的使命(ミッション)」に基づいた「イノベーション(改革)」と「リノベーション(再建)」をする以外に考えられません。

Q：具体的にはどうすればよいとお考えですか。

A：「競争力」を身につけるには、最も強い競争相手を明確に意識し、自らが競争の主体になる以外ありません。例えば、学習塾業界で「佐鳴」と「秀英」が圧倒的に強いと言われるのはなぜかというところ、おそらく静岡県という地域で激烈な競争を繰り返した結果、両塾が「競争力」を磨き続けたからだだと私は考えます。

「競争」から逃げないで真正面から「競争」と立ち向かうことだけが、「競争力」を磨き込み、「卓越した業績」を約束します。

Q：最後に、「競争」とは何かについて勉強する上で、参考となる適当な本を紹介して下さい。

A：マイケル・ポーター教授の「競争戦略論Ⅰ・Ⅱ」(ダイヤモンド社刊)がお勧めです。特に第Ⅱ巻には、競争の本質、「クラスター」のつくり方が詳細に述べられています。線を引きながら5～6回お読み下さい。

意欲のある先生は、一橋大学大学院国際企業戦略研究科が主催する「マイケル・ポーター賞」に応募なさることをお勧めします(H.P.で検索を)。歯をくいしばって、頑張りましょう。

— 2006年3月2日記 —